

「宇宙からの贈り物」

北海道研究大会に参加して

沖縄会会長 山内 眞樹



私にとって大きなハプニングだった。

会場は超満員、研究大会参加の会計士など約700名、マスコミ、行政、企業など約300名の1000名を越す聴衆の中、宇宙飛行士 毛利 衛さんの記念講演である。話が佳境にはいって、スペースシャトルから見た地球、大洋、5分間で南から北へ通過するという空からの日本列島の映像、空から見た各地域会（勿論、緑色の地図が見えるだけ）、真っ白の宝石のような富士山、美しい日本、変化する地球の昼と夜、果物の薄皮のような地球、その水と空気、そして、火星の話——かつては水があって生物が存在したかもしれないが、今は死の世界——でも、地球は皆さんが存続させようという意思がある限り永遠に続きます。

その時、突然スクリーンの映像が変わり、バッテリーボックスの——イチローが現われた。

「皆さんはイチローが活躍するとうれしいですね——何故でしょう？」

微笑みながら会場へ質問？ そして、突然、演壇からマイクをもって会場へ降りてこられた。

私の方へ歩いて来るのでドキドキして——でも2列目だから大丈夫と思っていると、前で立ち止まって、

「あなたは何がうれしいですか？」と質問された。

ドギマギしながら、おもわず「——お客さんに喜んでもらうとうれしい——」小学生になったような気持ちで——「です」も忘れていた、そして、毛利さんは会場に向かって「人は誰かに喜んでもらうとうれしいですね」と言って、

「それでは、どうしてうれしいのでしょうか？」と私に問いかけて、また、マイクが差し出された。頭の中が真っ白になって余り考えずに答えた。

「——会計は本来、物事を透明にする仕事です。会社が透明になると、どこが悪いのかが解ります。その悪いところを——」

途中でマイクを戻して、また会場へ向って、「誰かに喜んでもらうとうれしい——そうですね、それが大切ですね。—————」

「ところで、あなたは どこから来ましたか？」

名札がかくれていたのを、背広の襟に手をのばして、

「沖縄から来たのですか？ 山内さんですね。皆さん 沖縄から来た山内さんです。」

会場からすごい拍手が沸いて、毛利さんは握手をしてくださって演壇へ戻って行かれた。

話はイチローに戻り、「イチローは誰かに喜んでもらおうと意識して活躍しているのではないかもしれませんが。勿論、そうかもしれませんが、そんなことはないかもしれません。でも、日本人を楽しませてくれますね。誰かのために役に立つ、誰かをたのしませ喜ばせようとする、人々にそういう気持ちがあればこの地球は永遠に続くと思います。」

1時間余り、素晴らしい講演であった。

講演に先立つ来賓挨拶では北海道財務局長、北海道知事（女性、若々しくてとっても美人）、札幌市長の話が印象的であった。

北海道での研究大会の開催を歓迎、そして素晴らしい北海道の風物の紹介は当然としても、そろって3名が「会場の皆さん、是非とも、もう1泊、予定を変更して北海道を楽しんで下さい、素晴らしいところがあります。帰られてから、知り合いにその良さを宣伝して下さい。お願いします。そうしたら、北海道の経済と景気がとても助かります。」というような北海道セールスを心から話されたのがとても印象に残った。

北海道は、会計士も、タクシーの運転手も、ホテルも、行政も——北海道をみんなで良くしようとしている。心からそんな感じがした。

予定もあり、切符もないので、もう一泊はしなかったが、本当に心に残る、気持ちのこもった話であった。

「ミスター・公認会計士」藤沼会長の各プログラムにおけるユーモアにあふれた格調の高い数々のスピーチは、最初から終わりまで、参加会員に職業会計人の誇りと自覚とを促し、各研究会場の発表は充実していて満足の行くものであり、楽しい前夜祭など、北海道の皆様のご準備には心から感謝の念がわいた。

夜の記念パーティでは、関西、東京時代の友人や協会の役員、先輩の方々何人もから、「山内さん、なかなか良かったよ。今日は沖縄が一番有名になったね。毛利さんと話が出来て、うれしいでしょう。」と言われた。

本当にうれしい一日だった。



YOSAKOIソーラン舞踊



大通公園